

# 寺子屋方丈舎

第 17 期(2016 年 10 月～2017 年 9 月)  
事業報告

フリースクール・通信制高校事業部  
第17期（2016年10月～2017年9月）  
事業報告

**事業趣旨**

不登校の数は、小学校 237 人に 1 人（0.42%）中学校 35 人に 1 人（2.83%）  
高校は 67 人に 1 人（1.49%）とある。（文部科学省：平成 27 年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査）もはや「不登校は誰にでも起きうること」である。  
不登校の課題として、子ども・保護者の孤立や子どもの学習権の保障があり、学校や家庭以外での居場所が必要である。

**1 運営営体制**

**(1) 事業目的**

学校に行くいかないに関わらず、多様な学びの形をつくる。  
学びと活動を通して、自己肯定感を育む。

**(2) 実施体制**

常勤スタッフ： 大竹佑佳  
御領園登 （～2016.12）  
小松雄太 （2016.11～2017.02）  
五十嵐太一 （2017.04～）

**2. 事業報告**

**(1) フリースクール・通信制高校事業**

	事業名	実施日数	開催場所	登録人数	延べ人数
10月	FS、通信制	20日	FS スペース	18人	145/360人 (40%)
11月		19日		18人	145/342人 (42%)
12月		16日		18人	136/288人 (47%)
1月		15日		18人	98/270人 (36%)
2月		18日		18人	140/324人 (43%)
3月		18日		18人	115/324人 (35%)
4月		17日		7人	78/119人 (65%)
5月		15日		7人	52/105人 (49%)
6月		20日		7人	65/140人 (46%)
7月		18日		7人	62/126人 (49%)
8月		7日		8人	31/56人 (55%)
9月		20日		8人	82/160人 (51%)
	合計	203日	合計	1149/2614名 (43%)	

**◆概要◆**

- ・英会話（～2017.3） → 英語で自分（の考え）を表現することを学ぶ
  - ・音楽プ（～2017.3） → ドラム、ギター、ベースの弾き方を学ぶ
  - ・子ども MT → 自分たちの場所を自分たちで計画し作っていく
  - ・デザイン → デザイン用アプリのテクニックを学ぶ
  - ・体育 → バレー、バスケ、筋トレ、ドッチなどを行う。
  - ・パソコン（～2017.3） → ワード・エクセルなどの基本からプログラム言語
  - ・法律教室（～2017.3） → 契約、クレジットカードのメリットデメリット等を学ぶ
  - ・その他…東京遠足（2016.11）、書初め（2017. 01）新潟遠足（2017. 05）美術館見学（2017.06）、ボランティア活動、歓迎会、卒業式、掃除、テーブル作り
- ・利用者の一部が、方丈舎の環境教育事業（自遊学キャンプ、森のようちえん）のボランティアをし、小学生や未就学児・他のボランティアと交流をした。ボランティアした利用者からは、役割に対しての責任や子どもと関わる難しさ、また達成感が得られた、と話す。

- ・2017年4月より放課後居場所と活動場所が一緒になり、月曜～金曜の夕方に小学生との異年齢交流を行っている。
- ・1年間で、合計223日活動、延べ1149人利用。登録数に対し平均で43%の利用。
- ・2017年3月卒業者：フリースクール2名（進学2名）、通信制高校9名（就職2名、進学2名、その他5名）※その他については、現在追跡調査を実施中
- ・2017年9月卒業者：通信制高校2名（就職準備1名、アルバイト1名）

#### ◆成果◆

- ・デザイン→KURA.チラシを完成
- ・法律教室→レポート提出（通信制高校単位の一部として）
- ・英会話→会津木綿ランチョンマット作成（子どもの趣味である裁縫と会津の文化の紹介から）
- ・音楽→ベースで3曲弾けるように。
- ・パソコン→3Dでフライパンを描き、レポート提出（通信制高校単位の一部として）
- ・利用アンケート結果から、子どもたちからは特に、プロジェクト（パソコン、体育など）に対して、楽しかったと答えた（6返答中6回答）。  
保護者からは、「子どもが明るくなった」など肯定的な意見が多かった（6返答中3回答）。また、「子どもとの距離感が良い。」という意見もいただいた。保護者の満足度は6返答中6回答「100点」と満足度は高い。

#### ◆課題◆

- ・同じくアンケートで、子どもから「スタッフの入れ替わりが激しい。」という意見をいただいた。「慣れたところに離れてしまうのはイヤだ。」とのこと。
- ・保護者からは、教科学習の時間や自由な時間に対して、「メリハリを」という意見もいただく。
- ・3月までの登録人数が18名から、4月以降7名（8月より8名）と人数が減っている。登校率は若干上がってはいるものの、登録人数を増やすこと、また登校率を増やすことが課題である。

環境教育事業部  
第 17 期 (2016 年 10 月～2017 年 9 月)  
事業報告

**事業趣旨**

環境教育事業部では、「子どもの社会参画を支援する」という団体の活動指針のもと、西会津町の旧西会津町奥川保育所を活動拠点とし、環境教育の企画・実施・普及をいたしました。ここに、第 17 期の事業報告をご報告します。

**1. 運営体制**

**(1) 事業目的**

非日常の生活、自然を使った遊びや少し不慣れた環境の下、子どもたちが自立（自分の気持ちを知る）と共生（相手と一緒に何かをつくる）をテーマにお互いが相談しながら生活し、楽しさを感じながら活動することで、子どもたち 1 人 1 人の自己肯定感を育む。

**(2) 実施体制**

常勤スタッフ：蓮沼周平  
大竹佑佳  
五十嵐太一

**2. 事業報告**

**(1) 自遊学キャンプ事業**

	事業名	実施日	実施日数	開催場所	スタッフ体制	参加人数	延べ人数
1	平成 28 年度	10 月 8 日～10 日	3 日	西会津町奥川地区	5 名	19 名	57 名
2	地域づくり総合支援事業	10 月 29 日～30 日	2 日	旧西会津町奥川保育所	5 名	15 名	30 名
3		12 月 25 日～28 日	4 日	西会津町新郷地区呼賀古民家	6 名	23 名	92 名
4		1 月 5 日～8 日	4 日		7 名	22 名	88 名
5		3 月 18 日～20 日	3 日		7 名	24 名	72 名
6		3 月 25 日～28 日	4 日		6 名	20 名	80 名
7		平成 29 年度 冒険ひろば設置運営業務	5 月 3 日～6 日	4 日	西会津町奥川地区 旧西会津町奥川保育所	7 名	15 名
8	全日本社会貢献団体助成事業	7 月 15 日～17 日	3 日	6 名		23 名	69 名
9		7 月 22 日～25 日	4 日	6 名		23 名	92 名
10		7 月 28 日～31 日	4 日	6 名		24 名	96 名
11		8 月 3 日～6 日	4 日	7 名		26 名	104 名
12		8 月 9 日～12 日	4 日	6 名		24 名	96 名
13		8 月 17 日～20 日	4 日	7 名		26 名	104 名
14		9 月 17 日～19 日	3 日	6 名		23 名	69 名
		合計	50 日			合計	1,109 名

**◆概要◆**

非日常の生活、自然を使った遊びや少し不慣れた環境の下、子どもたちが自立（自分の気持ちを知る）と共生（相手と一緒に何かをつくる）をテーマにお互いが相談しながら生活し、楽しさを感じながら活動することで、子どもたち 1 人 1 人の自己肯定感を育むプログラムを実施。

具体的には、川あそびや地域散策等、西会津町奥川地域の地域資源を活かしたプログラムを実施していくと共に、地域の方との交流プログラムを実施。農業体験や郷土料理作りなど、子どもたちが地域の方々と一緒に楽しむこと目的として実施。

**◆成果◆**

全 14 回のプログラムを実施。延べ 1,109 人が参加した。昨年からの旧西会津町奥川保育所を活動拠点として使用し、施設の周辺の自然環境を利用しながら参加した子どもたちと一緒に遊び場を作り上げていくことができた。今期参加した子どもたちはリピーター約 40%、新規約 60%となっており、徐々にリピーターの数が増

え継続的な関わりが出来るようになってきた。また地域住民の方からも一定の理解が得られており、野菜の差し入れなど頂きながら交流が図れるようになった。

◆課題◆

プログラムを実施する上で、20名以上の子どもたちを受け入れるにはボランティアスタッフの確保が欠かせないが、新規ボランティアばかりでは、プログラムの質を一定に保つことが難しい状況であった。今後子どもたちが継続的に関われるようにして行く為にも、ボランティアの人材育成及びプログラムの質を一定に保つ仕掛けが必要である。

(2)自遊学キャンプ in いわき事業

	事業名	実施日	実施日数	開催場所	スタッフ体制	参加人数	延べ人数
1	自主事業	10月22日～23日	2日	いわき市 湯ノ岳山荘	5名	16名	32名
2		11月5日～6日	2日		5名	15名	30名
3		12月10日～11日	2日		5名	17名	34名
4		5月27日～28日	2日		7名	17名	34名
5		6月24日～25日	2日		6名	18名	36名
6		9月9日～10日	2日		6名	17名	34名
7		9月30日～10月1日	2日		5名	15名	30名
		合計	14日			合計	230名

◆概要◆

地域内において、同じ子どもたちが全4回のプログラムに継続的に参加することで、子どもたちの横の関係性をより深める。学校とは違う仲間と一緒にキャンプを行います。一緒に活動し、お互いに助け・助けられることを経験しながら、仲間を作り・お互いの関係を深めて、自分たちだけの居場所を目的として実施。

◆成果◆

計7回のプログラムを実施。合計活動日数14日。延べ230人が参加した。昨年度から実施しているいわき企画だが、継続的に参加してくれる方が11名と多かった。同じメンバーで継続的に実施していることと、同じ場所で同じスタッフが継続的に関わっているということも参加しやすいという声を頂いている。

◆課題◆

参加者数の内、半数以上がリピーターの参加となっていることは嬉しいことではあるが、新規の子ども参加率が低いことが課題として上げられる。継続的に同じメンバーで実施していることで、新規の子どもたちが参加しにくい状況があるのではないかと考えられる。

(3)自遊学キャンプ in にいがた事業

	事業名	実施日	実施日数	開催場所	スタッフ体制	参加人数	延べ人数
1	自主事業	5月20日～21日	2日	新潟市秋葉区 エコまる村	4名	7名	14名
2		6月17日～18日	2日		6名	11名	22名
3		9月2日～3日	2日		3名	8名	16名
4		9月23日～24日	2日		5名	11名	22名
		合計	8日			合計	74名

◆概要◆

新潟市において初めての開催。いわき市での開催同様に同じ子どもたちが全4回のプログラムに継続的に参加することで、子どもたちの横の関係性をより深める。学校とは違う仲間と一緒にキャンプを行います。一緒に活動し、お互いに助け・助けられることを経験しながら、仲間を作り・お互いの関係を深めて、自分たちだけの居場所を目的として実施。

◆成果◆

計4回のプログラムを実施。合計活動日数8日。延べ74人が参加した。回数を重ねるごとに子どもたちの関係性が深まっていくのを実感できた。参加者の中には東日本大震災で自主避難をしてる家庭も複数あり、福島とつながりのある家庭に参加頂けたことは喜びであった。

◆課題◆

定員20名で実施したが、登録人数は11名となってしまった。新潟市で初めて実施したということもあるが、施設を管理している新潟テレビ21や仲介役となってくれたNAMARAなどのステークホルダーと協力関

係を築けなかったことが要因として考えられます。

(4)冒険ひろば事業

	事業名	実施日	実施日数	開催場所	スタッフ体制	参加人数
1	平成 28 年度 冒険ひろば 設置運營業務	10月5日	1日	会津若松市 大町中央公園	3名	8名
2		10月12日	1日		3名	4名
3		10月19日	1日		3名	2名
4		10月23日	1日	いわき市 湯ノ岳山荘	4名	17名
5		10月26日	1日	会津若松市 大町中央公園	3名	8名
6		11月2日	1日		3名	7名
7		11月6日	1日	いわき市 湯ノ岳山荘	4名	15名
8		11月9日	1日	会津若松市 大町中央公園	3名	5名
9		11月16日	1日		3名	5名
10		11月30日	1日		3名	11名
11		12月7日	1日		3名	12名
12		12月11日	1日	いわき市 湯ノ岳山荘	4名	16名
13		12月14日	1日	会津若松市 大町中央公園	3名	10名
14		12月21日	1日		3名	10名
15		1月11日	1日		3名	10名
16		1月18日	1日		3名	11名
17		2月1日	1日		3名	12名
18		2月8日	1日		3名	10名
19		2月15日	1日		3名	11名
20		2月22日	1日		3名	10名
21		3月1日	1日		3名	12名
22		3月8日	1日		3名	13名
23		3月15日	1日		3名	11名
24		3月18日	1日	西会津町新郷地区呼賀 古民家	4名	14名
25		3月19日	1日		4名	13名
26		3月20日	1日		4名	15名
27		5月3日	1日	西会津町奥川地区 旧西会津町奥川保育所	4名	15名
28		5月4日	1日		4名	13名
29		5月5日	1日		4名	12名
30		5月6日	1日		4名	15名
31		5月28日	1日	いわき市 湯ノ岳山荘	4名	17名
32		6月1日	1日	会津若松市 大町中央公園	3名	5名
33		6月8日	1日		3名	3名
34		6月15日	1日		3名	10名
35		6月22日	1日		3名	8名
36		6月25日	1日	いわき市 湯ノ岳山荘	4名	18名
37		6月29日	1日	会津若松市 大町中央公園	3名	12名
38		7月6日	1日		3名	10名
39		7月13日	1日		3名	11名
40		8月24日	1日		3名	9名
41		8月31日	1日		3名	11名
42		9月7日	1日		3名	12名
43		9月10日	1日		いわき市 湯ノ岳山荘	4名
44		9月14日	1日	会津若松市 大町中央公園	3名	14名
45		9月21日	1日		3名	13名

46		9月28日	1日		3名	13名
		合計	46日		合計	524名

◆概要◆

子どもたちが楽しく自分のやりたい遊びをやってみる、「面白そう！」「できるかな？」子どもたちの好奇心を大切に、「自由」に、子ども自らが「責任」を持って「楽しく遊べる」居場所作りを目的として実施。

◆成果◆

継続的に実施していることで、固定メンバーの参加が見られるようになった。参加者が参加者を呼ぶという循環が出来て来ている。また「冒険ひろば」という名称が子どもたちから聞けるようになってきた事は、子どもたちの遊び場として認知されて来たと感じる。

◆課題◆

子どもたちとの関係性を築くのに、少し苦勞している。日帰りでいつ来ても・帰ってもいいというスタイルで、事前登録もないので、子どもたちの顔と名前を覚えることが難しい。名前を呼び合うという基本的なコミュニケーションが出来ていないので、より継続的に参加してもらうためにも、まずは名前を呼び合うコミュニケーションを実施していきたい。

子ども食堂事業部  
第17期（2016年10月～2017年9月）  
事業報告

**事業趣旨**

現在6人に1人は貧困状態にある。生活困窮世帯に暮らす子どもたちは一般世帯に比べて、栄養状態や睡眠不足、不安や諦めが強くあり、また、進学や就職に有益な学習の機会が少なく、貧困の連鎖が問題化されている。

バランスの良い食事を一緒に作り、学習をする「子ども食堂」で、ひとりでも多くの子どもが自立した大人として成長し、貧困の連鎖を断ち切ることを目的とする。

**1. 運営体制**

**(1) 事業目的**

継続的な自分たちでつくる食事をおして仲間との共感、料理をしたことで得られた発見から、自主性と共に自己肯定感や感性を育む。困難を子どもたちと解決しながら、話し合いをつうじて学びを蓄積してゆく。

**(2) 実施体制**

常勤スタッフ：御領園登（～2016.12）  
非常勤スタッフ：林恵子（2017.1～2017.6）  
非常勤スタッフ：山内愛菜（2017.7～）

**2. 事業報告**

**(1) 子ども食堂事業**

	事業名	実施日数	開催場所	登録人数	延べ人数
10月	子ども食堂	0日	南公民館	0名	0名
11月		5日		2名	11名
12月		3日		2名	6名
1月		4日		2名	3名
2月		4日		2名	4名
3月		3日		2名	6名
4月		3日		2名	9名
5月		4日		2名	13名
6月		4日		2名	11名
7月		4日		5名	17名
8月		1日		5名	4名
9月		4日		5名	16名
	合計	39日	合計	100名	
10月	子ども食堂	4日	瑞祥館	12名	37名
11月		4日		12名	44名
12月		3日		12名	31名
1月		3日		12名	24名
2月		4日		12名	28名
3月		4日		12名	32名
4月		3日		12名	26名
5月		4日		12名	26名
6月		4日		12名	23名
7月		4日		12名	23名
8月		3日		12名	16名
9月		4日		12名	22名
	合計	44日	合計	332名	
10月		1日		1名	2名



11月	子ども食堂	3日	城西コミュニティセンター	1名	3名
12月		3日		1名	4名
1月		1日		1名	1名
2月		4日		5名	9名
3月		4日		8名	12名
4月		3日		9名	5名
5月		3日		9名	6名
6月		5日		9名	9名
7月		4日		10名	12名
8月		1日		10名	2名
9月		4日		10名	27名
	合計	36日	合計	92名	

◆概要◆

子どもたちが主体となって、調理ボランティアの方と夕食を作る。空いた時間は、学習支援ボランティアの方に宿題を見てもらったり、お絵かきや将棋などをして遊んだり、おしゃべりしている。

◆成果◆

門田→登録者が増えたため、利用者も増えた。

在席している小学校に関係なくみんな仲良くしている。

相生→4月頃に比べると、子どもたちとボランティアの方々の距離が近くなったと思う。

城西→登録者が増えたため、利用者も増えた。

登録している子どもが友達や兄弟を誘って来てくれる。

◆課題◆

門田→場のルールを設定をしていないので、空いた時間の使い方（どんな遊びならいいか等）の話し合いが必要。

相生→登録者は変わらず、利用者が減ってきている。

前までのルールが合わないところがあるので、一度子どもたちで話し合い、新たに場のルール作りが必要。

調理に関わる子どもが減ってきている。

城西→登録者は増えたが、毎週参加してくれるわけではないので、何人分で作ればよいのかが難しい。

調理に関わる子どもが減ってきている。

放課後居場所事業部  
第17期（2016年10月～2017年9月）  
事業報告

**事業趣旨**

放課後居場所では、「子どもの社会参画を支援する」活動方針のもと、「安全に、安心して、自由に遊べる居場所」として、東日本大震災で被災した子どもたちを対象に放課後の居場所を作る。

**1. 運営体制**

**(1) 事業目的**

会津地方に長期避難生活をしている大熊町の子ども、または自主避難の子どもが放課後の時間に安心して、安全に・自由に遊べる環境を作り、子どもたちの震災ストレスを軽減する。

**(2) 実施体制**

常勤スタッフ： 大竹佑佳

非常勤スタッフ： 山内愛菜

**2. 事業報告**

**(1) 放課後居場所事業**

	事業名	実施日数	開催場所	登録人数	延べ人数
10月	放課後居場所	19日	寺子屋方丈舎事務所	7名	47名
11月		18日		6名	38名
12月		15日		6名	18名
冬休み		5日		6名	5名
1月		16日		6名	15名
2月		20日		6名	34名
3月		16日		6名	29名
4月		17日		6名	45名
5月		20日		6名	50名
6月		22日		6名	63名
7月		14日		6名	34名
夏休み		18日		6名	22名
8月		7日		6名	18名
9月		20日		6名	51名
	合計	207日		合計	469名

**◆概要◆**

スタッフやフリースクールの子どもたちと一緒に、工作や楽器を演奏したり、ごっこ遊びやボードゲーム等の遊びを通して異年齢交流を深める。外遊びで思い切り体を動かすことでストレスの軽減を図る。日々の宿題やおやつ作りでの「解けた」「できた」を通して自己肯定感を育む。

**◆成果◆**

- ・登録者が3月で1名卒業してしまったが、4月から新入生の登録があった。
- ・4月からフリースクールと同室になったことにより、中学生や高校生と関わる時間が増えたので、楽器や工作などを教わるようになった。
- ・利用者はシングルマザーの方が多く、お仕事の都合などで帰りの時間が遅くなってしまいうケースがあったり。長期休みでは、早めの時間に預かってほしいという要望もあった。これらのケースや要望に対して、しっかりと対応することが出来たので、個別のニーズにしっかりと対応することができた。

**◆課題◆**

- ・登録者は6名いるが、日常的に利用されている家庭は3名程となっている。
- ・フリースクールと同室になったことにより、3月までの場のルールがなくなってしまったので、新たに場のルールを明確にする必要がある。
- ・外遊びやおやつ作り等の取り組みも4月以降減ってしまったので、子どもたちが興味を持ってくれるような工夫をしていく。